



主な内容

- 特集—— 「岩手医科大学附属病院コールセンター」 について
 - トピックス—— 名誉教授称号授与式が行われました
平成30年度 入学式が行われました
 - フリーページ—— すこやかスポット 薬学講座No.7
「アルツハイマー病の研究とやる気・健康の科学」
- 表紙写真：満開を迎えた石割桜（2018.4.20 医用画像情報センター撮影）

特集

「岩手医科大学附属病院コールセンター」について

地域医療連携センター

今回の特集では、外部医療機関から患者紹介に関する相談および問い合わせに附属病院全体で組織的に対応するため、平成 29 年 12 月 15 日より運用を開始したコールセンターについてご紹介します。

1 目的

当院では、これまで外部からの電話について大学の代表番号を窓口として、電話交換手を通し、その後各部署で対応しておりました。電話交換手の対応する電話の本数は、内部からの問い合わせも含め 1 日に 2 千数百件に及び、人員や交換機の問題から対応に限りがありました。また、各診療科に転送した際にも内容によっては複数のスタッフが対応していたことから、外部の医療機関の方々より、「非常につながりにくい」「いつまでも待たされる」「いつも話中である」等、様々なご意見をいただいております。そのような課題に対応するため、平成 29 年 12 月 15 日に地域医療連携センター内に「コールセンター」を開設いたしました。

「コールセンター」では、外部医療機関からの患者紹介に関する相談および問い合わせに附属病院全体で組織的に対応し、スムーズに取り次ぎが行える体制ならびに適切かつ懇切丁寧な対応をすることを目的としております。

2 設置部署

岩手医科大学附属病院 地域医療連携センター内



3 運用時間

平日：8 時 30 分～17 時 00 分

第 1・4 土曜日：8 時 30 分～12 時 30 分

※上記時間で運用を開始いたしましたが、現在 24 時間運用を目指しコールセンター設置に係る検討ワーキンググループで検討を進めております。

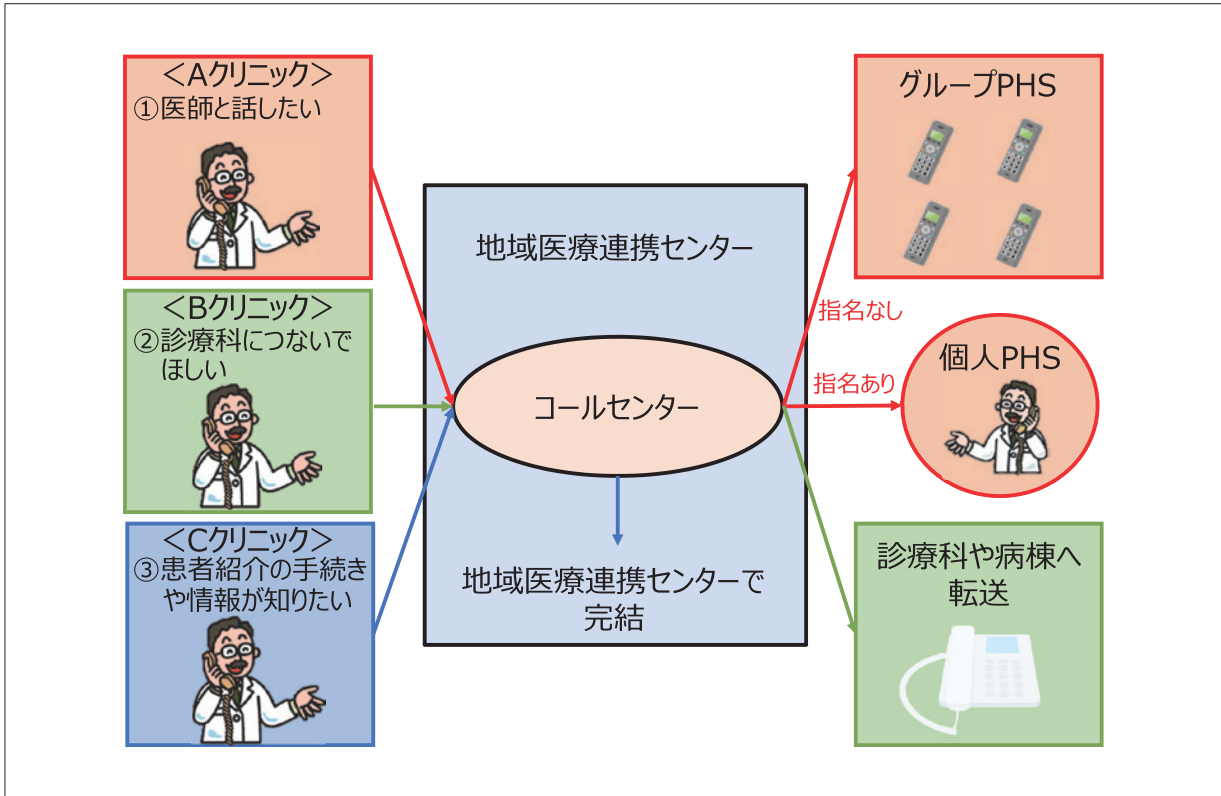


4 運用体制

コールセンターにて初期対応し、内容により各科医師・医師PHSグループ、他関連部署に取り次ぎを行うこととしております。

- ①医師との通話を希望されるものについて → 各科医師・医師PHSグループへ転送
- ②各診療科での対応が必要なものについて → 各科外来・病棟固定電話へ転送
- ③事務手続きや患者情報の照会について → コールセンターにて対応

【コールセンター体制図】



5 稼働状況

	12月	1月	2月	3月	合計
転送（医師個人 PHS）	21	21	28	34	111
転送（PHS グループ）	7	13	4	11	35
転送（外来）	35	44	71	93	243
転送（病棟）	10	6	6	10	32
転送（その他）	15	16	9	13	53
連携センター内で対応	27	51	59	68	205
その他	1	1	0	0	2
合計	116	159	177	229	681

6 おわりに

コールセンターを設置したことにより、数コール以内で対応し、スムーズに関係部署等に転送することができております。開設後、4か月ほどが経過しましたが、新規の利用機関、利用件数も順調に増加をしております。

今後は、さらに多くの医療機関にご利用いただけるように、各医療機関に対し、周知・広報を行うとともに、職員一人一人の懇切丁寧な対応ならびにスムーズな対応がなおいっそう重要となってきますので、ご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

名誉教授称号授与式が行われました

4月2日(月)、創立60周年記念館10階会議室において、名誉教授称号授与式が行われました。

式では、小川理事長が名誉教授の称号を授与し、これまでの大学への貢献に対して感謝の言葉を送りました。

後列左より

佐藤医学部長、小林副学長、三浦副学長、
酒井副学長

前列左より

中村名誉教授、谷田名誉教授、小川理事長、
祖父江学長、小豆嶋名誉教授



平成30年度新入職員辞令交付式が行われました

4月2日(月)、歯学部4階講堂において、平成30年度新入職員辞令交付式が行われ、236名が岩手医科大学の一員となりました。

式では新入職員を代表し、病理学講座機能病態学分野 助教の西谷匡央さんが、小川理事長より辞令書を受け取りました。また、西4階病棟看護師の森山美波さん(写真)は「1つでも多くの笑顔を守れるよう、命と向き合う大切な仕事を誠の精神で全うしていきたい」と力強く誓詞を述べました。



第3回 岩手医科大学跡地活用検討会議が開催されました

3月28日(水)、創立60周年記念館10階会議室において、第3回岩手医科大学跡地活用検討会議が行われました。本会議は矢巾町への本学附属病院移転にあたり、将来的な内丸地区の跡地活用を協議することを目的として、岩手県、盛岡商工会議所、盛岡市、本学の4者によって構成される会議です。

第3回となる今回は、本学から平成29年度の活動報告として、先進施設事例視察や附属病院移転に係る進捗状況の報告が行われました。また、平成30年度の取り組みについては、先進事例視察を継続し、事例検証を深めるとともに、地元町内会・商店街等との意見交換会を行い、将来を見据えたより慎重な議論を進めていくことを確認しました。



平成30年度入学式が行われました

4月11日(水)、盛岡市民文化ホール大ホール(マリオス内)において、岩手医科大学・岩手看護短期大学の合同入学式が行われました。岩手医科大学では、大学院医学研究科博士課程33名・修士課程3名、歯学研究科博士課程9名、薬学研究科博士課程3名・修士課程1名、医学部120名・3年次編入7名、歯学部46名・2年次編入学2名、薬学部64名、看護学部は93名の入学生を、岩手看護短期大学では、専攻科地域看護学専攻22名、助産学専攻15名の入学生を迎えました。

また、岩手医療専門学校の入学式は、4月7日(土)に歯学部4階講堂で行われ、歯科技工学科7名、歯科衛生学科31名の入学生を迎えました。



岩手医科大学・岩手看護短期大学



岩手医科大学医療専門学校

定年退職を迎えられた教職員の皆様、長い間お疲れ様でした

本年3月31日付で定年を迎えられた皆様には、長い間岩手医科大学発展のためにご尽力いただき、厚く御礼申し上げます。皆様の今後のご健勝を祈念いたします。



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|--------|---------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 6 列目 | 大森 寛 | 村田 明 | 永峰 正幸 | 小泉 修栄 | 三善 匠 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 列目 | 村上 昭雄 | 豊巻 和司 | 柳田 博 | 阿部 由悦 | 及川 建弘 | 吉田 政一 | 藤原 和隆 | 清水 尚 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 列目 | 横澤 正浩 | 藤沢 功 | 佐々木 淳子 | 平谷 郁子 | 能登谷 美智子 | 藤沢 知梨子 | 川村 秀子 | 日向 久美子 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 列目 | 豊巻 世津子 | 中野 裕子 | 菊池 れい子 | 神原 栄子 | 松岡 たづ子 | 井上 和子 | 堀口 真由子 | 遠藤 千賀子 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 列目 | 加茂 政晴 | 小豆嶋 正典 | 工藤 文子 | 井上 美智子 | 齋藤 美津子 | 菊地 弘子 | 平田 久美子 | 西野 貴美子 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 列目 | 三浦 幸枝 | 嶋森看護学部長 | 三浦副学長 | 酒井副学長 | 小川理事長 | 祖父江学長 | 小林副学長 | 佐藤医学部長 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |



内科学講座消化器内科肝臓分野 黒田 英克 講師が画論25th The Best Imageにおいて、2年連続の「超音波腹部部門最優秀賞」を受賞しました

この度、画論25th The Best Image（平成30年1月27日、キヤノン株式会社本社）において、2年連続の「超音波腹部部門最優秀賞」を受賞しました。

画論は、画像診断技術の発展と医療貢献を目的として1993年に設立された学術イベントで、診断・治療に必要な臨床画像のクオリティ、撮像・処理技術の工夫、臨床的価値や討論など総合的に審査が行われます。

演題は「肝細胞癌」で、超音波装置に搭載されたハイエンドの映像化手法を駆使して複雑な腫瘍内外の血流動態を非侵襲的に観察し、詳細な病態解析を行った点が評価されました。受賞にあたりご指導ご鞭撻いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。

（文責：黒田 英克）



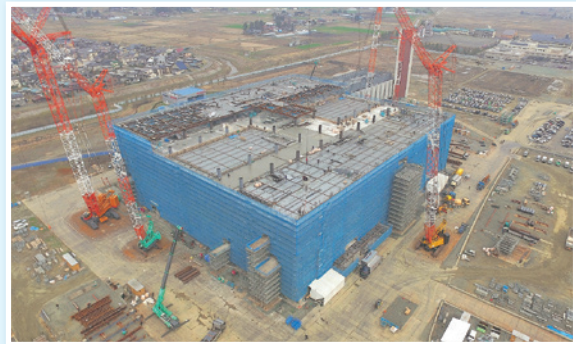
（左：滝川教授、中央：黒田講師、右：祖父江学長）

病院工事進捗状況

矢巾新病院の工事は着々と進んでおり、現在は6階の床工事を行っております。4月下旬からは7階の床工事に入っていきます。大学のホームページにて、約2週間に1回、工事の進捗を掲載しておりますので、是非ご覧ください。



〈マルチメディア棟側から撮影〉



〈ドローンで南東側から撮影〉

撮影日：平成30年4月11日



エフエム岩手 ラジオ番組 「岩手医科大学 ～いのちから～」

2018年5月の放送予定（毎週日曜9：30～9：55）

放送日	テーマ	出演		
5月6日（日）	ヘルスリテラシー ～医療情報の調べ方～	図書館事務室	室長補佐	川崎 かおる
5月13日（日）	日常の中の家族のちから	共通基盤看護学講座	教授	三浦 まゆみ
5月20日（日）	悪性リンパ腫について	内科学講座 血液腫瘍内科分野	教授	石田 高司
5月27日（日）	地域を守る本学附属病院における看護師の役割	看護部	看護部長	佐藤 悦子

- 放送内容は都合により変更となる場合があります。
- 過去放送分は、エフエム岩手ホームページ（<http://blog.fmii.co.jp/inochikara/>）でお聴きいただけます。
- 放送に関するお問い合わせは、企画調整課（内線：7023）までご連絡ください。

岩手医科大学募金状況報告

【創立120周年記念事業募金】

岩手医科大学創立120周年記念事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は第21回目の御芳名紹介です。(平成30年1月1日～平成30年2月28日)

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方は掲載しておりません。

●法人・団体等 (21件)

<5,000,000>

岩手医科大学共済会 (岩手県盛岡市)

<3,000,000>

医療法人 真心会 まきた内科ハートクリニック (岩手県花巻市)

医療法人 日新堂 八角病院 (岩手県盛岡市)

<1,000,000>

医療法人 よしだこどもクリニック (福島県本宮市)

医療法人 盛紀会 鳥羽整形外科医院 (岩手県大船渡市)

医療法人 明央会 福田眼科医院 (青森県上北郡)

<500,000>

医療法人 成精会 刈谷病院 (愛知県刈谷市)

<200,000>

株式会社 カイノス (東京都文京区)

<100,000>

シーマン 株式会社 (大阪府大阪市)

有限会社 北浦薬局 (秋田県男鹿市)

東京サラヤ 株式会社 (東京都品川区)

PSP 株式会社 (東京都港区)

株式会社 S&Sエンジニアリング (東京都港区)

<御芳名のみ掲載>

株式会社 トーセイメディカル (岩手県盛岡市)

医療法人社団 石史山会 札幌スポーツクリニック (北海道札幌市)

株式会社 エイアンドティー (神奈川県横浜)

医療法人 くさの耳鼻咽喉科クリニック (福島県福島市)

盛岡ニッタン 株式会社 (岩手県盛岡市)

医療法人 本田医院 (岩手県奥州市)

医療法人 和心会 鈴木内科医院 (岩手県盛岡市)

医療法人 燦宗会 どい内科クリニック (福岡県筑紫野市)

(順不同、敬称略)

●個人 (50件)

<10,000,000>

佐藤 雅夫 (医23)

<1,000,000>

根本 薫 (医30)

今泉 信一郎 (医15)

足立 学 (父母)

田澤 稔 (医19)

<500,000>

笹村 拓美 (医28)

長谷川 靖 (父母)

<100,000>

加賀谷 博雄 (父母)

<50,000>

藤原 義正 (父母)

小柴 孝友 (父母)

新山 龍治 (歯7)

<30,000>

大江 靖 (父母)

<10,000>

海老原 裕磨 (医46)

菊池 勉 (父母)

秋山 智弥 (教職員)

小山内 善幸 (父母)

太田 直喜 (父母)

石川 一郎 (医49)

<御芳名のみ掲載>

後藤 康文 (役員)

工藤 徳治 (医7)

谷田 達男 (名誉教授)

飯島 仁 (医18)

荒川 明 (父母)

松村 智佳子 (父母)

野々村 章栄 (父母)

杉山 聡 (父母)

志賀 伯弘 (父母)

田村 真明 (父母)

太田 稔 (名誉教授)

吉田 浩一 (父母)

高橋 成子 (元教職員)

臼井 健裕 (薬1)

村上 正 (父母)

西谷 直之 (教職員)

佐藤 譲 (元教職員)

西村 守 (父母)

森野 豪太 (医66)

早川 訓夫 (父母)

園部 伸 (父母)

佐藤 進 (父母)

上野 一幸 (父母)

伊藤 玲 (歯26)

佐藤 ヨシ (元教職員)

伊藤 エイ (元教職員)

斎藤 トミヨ (元教職員)

山崎 貴一 (父母)

鈴木 裕子 (歯14)

野村 裕一 (父母)

小笠原 聡 (医40)

岩淵 優 (父母)

(順不同、敬称略)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	709	478,035,089
在 学 生 ご 父 母	538	280,430,000
役 員 ・ 名 誉 教 授	72	95,790,000
教 職 員	178	25,552,000
一 般	75	28,900,000
法 人 ・ 団 体	235	749,893,000
合 計	1,807	1,658,600,089

(平成30年2月28日現在)

シリーズ 職場めぐり

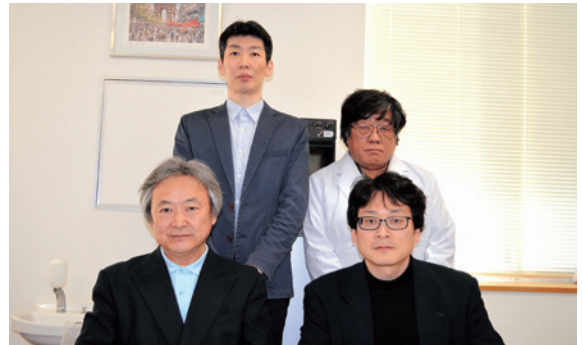
教養教育センター 物理学科

物理学科は佐藤教授、小松講師、寒河江助教、小田助教、計4人のスタッフからなり、物理学と情報科学に関連する科目、たとえば物理学、ベーシック物理、物理学実習、情報科学、情報科学演習、そして医科物理学特論を担当しています。

医学系大学の物理学科に所属する先生方の多くは放射線関連の研究をしています。よって当科では、放射線系の医学物理学会、The International Society for Optics and Photonics (SPIE)などの学会を中心に、36年間で約800回の講演を行っています。また、本学放射線科や東邦大学医学部外科のスタッフ7人も加わり、文部科学省、科学技術振興機構、私学事業団、岩手県などからの資金を得て、フォトンカウンティングX線CTや7T-MRIなどの研究が遂行され

ており、これらの成果は約500編の論文としてまとめられています。

(教授 佐藤 英一)



東5階病棟

東5階は、呼吸器・アレルギー・膠原病内科、呼吸器外科、小児外科の混合病棟で、幅広い年代の患者を対象としています。肺がん患者さんが多く、手術や化学療法、放射線療法を目的とした方から、人工呼吸器を装着される方、終末期を迎える方など、様々な状態で入院されます。私たちは、患者さんやご家族が安心して、満足が得られるような看護を提供するため、医師との定期的なカンファレンスで患者情報を共有し、看護に活かしています。さらに、病棟薬剤師や退院支援担当看護師、院内の医療チームとも情報共有することで、患者さんやご家族が抱える問題や課題を把握し、必要な時に必要な支援が適切に行えるように一丸となって努力しています。また、緩和ケア認定看護師を中心に、患者さんの気持ちのつらさに寄り添い、患者さんが治療や生活に関して自己決定できるように支援しています。

呼吸器・アレルギー・膠原病内科は、平成29年度より前

門戸任教授を迎え、呼吸器外科は、平成30年度より齊藤元教授を迎え新体制となっています。今後、より一層チーム力を高め、しっかり患者に寄り添っていききたいと思います。

(主任看護師 近藤 淑子)



用度課

用度課は事務員9名が物品調達や修理、保守契約等の業務を行っております。物品請求の際に書類等の整備を求められ、煩いと思うかもしれませんが、これは規程等に照らした結果であり、皆様、延いては大学を守るために必要なことです。ご理解ご協力をお願いします。このほか、中央手術部の物品管理のため、委託職員3名が業務を行っております。

ここ数年間では、内丸キャンパスの各学部へ物品請求システムを導入、また、本院の外来・病棟部門へSPDを導入し、伝票業務改善に貢献できたものと考えております。

教育・研究・診療の三本柱を発展させながら、矢巾新病院開設及び内丸地区整備事業を行うためには、多額の資金を要します。当課の取り組みとして、本年度は値引き交渉強化と併せ、物品の共通化や機器の管理強化等で皆様に

ご相談させていただく機会を多く持ちたいと考えております。本学の輝かしい未来のため、ご協力よろしく申し上げます。

(課長 遠藤 利明)



工藤 正樹

のんびり街歩き ～盛岡市材木町～

presents

いーはとーぶアベニューと呼ばれる盛岡市材木町。皆さまには「よ市」が開催される街として、ご存知の方も多いと思います。私が子供の頃から慣れ親しんだ町で、時を経て、昔の風情を残しながらも、味わいのあるいい町になっています。全長400mほどの町並みには、宮沢賢治のブロンズ像やセロのオブジェが配され、賢治の世界を歩いて楽しめる街です。各テーマのオブジェを見ながら、ゆっくりと散策できます。セロのオブジェからは、運が良ければ曲が聞こえます。また、宮沢賢治のブロンズ像のオブジェの手の中には、実はネズミがいて、近所の子供たちの間ではこのネズミを撫でると願いが叶うとの都市伝説もあります。

4月からは毎週土曜日が歩行者天国となり「よ市」が開催されます。新鮮な野菜や果物、海産物、お惣菜などが販売され、お祭りのように賑わいます。編集委員コーナーNo.24でご紹介した地元盛岡「ペアレン醸造所」の樽生ビールも販売されて、いつも行列ができています。地ビール片手に、いーはとーぶアベニューの材木町を散策してみたいかがでしょうか。散策中に宮沢賢治のブロンズ像の手を覗いて見ると、手の中のネズミが、もしかしたらですが、あなたの願いを叶えてくれるかもしれません。



〈材木町案内図〉



〈宮沢賢治のブロンズ像〉



〈セロのオブジェ〉

理事会報告 (2月定例ー2月26日開催)

1. 理事の職務担当区分について

2. 役職者の選任について

薬学部副学部長	河野 富一 (新任)
学生副部長	八重柏 隆 (新任)
大学附属病院副院長 (歯科医療センター長)	佐藤 和朗 (新任)
附属花巻温泉病院長	一戸 貞文 (再任)
いわて東北メディカル・メガバンク機構副機構長	坂田 清美 (新任)
いわて東北メディカル・メガバンク機構副機構長	福島 明宗 (新任)
医療専門学校長	三浦 廣行 (再任)

(任期 薬学部副学部長、学生副部長、大学附属病院副院長 (歯科医療センター長) については、平成30年4月1日から3年間、附属花巻温泉病院長、いわて東北メディカル・メガバンク機構副機構長、医療専門学校長については、平成30年4月1日から1年間)

3. 教員の人事について

看護学部 地域包括ケア講座 教授	
宮本 郁子 (前 帝京平成大学ヒューマンケア学部看護学科地域看護学 教授)	(発令年月日 平成30年9月1日付)
医学部 病理診断学講座 准教授	
石田 和之 (前 同講座 特任准教授)	
統合基礎講座 生化学講座細胞情報科学分野 准教授	
帖佐 直幸 (前 同分野 講師)	(発令年月日 平成30年4月1日付)

4. 組織規程の一部改正について

創立120周年記念事務室を廃止すること、研究に関する事務を効率的に行うため、研究助成課にリエゾンセンター事務室を吸収させること、事務員の効率的運用を図るため、災害時地域医療支援教育センター事務室を矢巾キャンパス教務課に吸収さ

せること、医務課の業務範囲が広いことから、同課を病院企画課と病院総務課に分割すること、病院移転後の医事課を見据え、同課に救急センター事務室を吸収させること、以上の研究事務体制及び病院事務体制の見直し等を行うこととして組織規程を一部改正することについて承認

(施行年月日 平成30年4月1日付)

5. 職員の人事について

学務部長	
赤坂 昇治 (前 学務部次長)	
病院事務部長	
塚澤 仁敏 (前 病院事務部次長)	
学務部矢巾キャンパス教務課長 (全学教育推進機構・災害時地域医療支援教育センター担当)	
藤原 淳一 (前 財務部用度課管財係長)	
学務部キャリア支援センター事務室長	
井上 拓也 (前 学務部歯学部教務課教務係長)	
病院事務部病院総務課長	
吉田 博貴 (前 企画部企画調整課企画係長)	
病院事務部医師卒後臨床研修センター事務室長	
山本 英子 (前 学務部災害時地域医療支援教育センター事務室係長)	(発令年月日 平成30年4月1日付)

6. テナント棟の名称について

テナント棟の施設名称について、商標登録等問題がないことを確認し、健康プラザに確定することについて承認

7. 附属病院移転に係る資金借入について

8. 附属花巻温泉病院の閉院について

《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰 佐藤真結美
影山 雄太 菊池 初子
松政 正俊 工藤 正樹
齋野 朝幸 熊谷 佑子
藤本 康之 安保 淳一
白石 博久 佐々木忠司
成田 欣弥 畠山 正充
遊田由希子 佐藤 侑子
佐藤 仁 武藤千恵子
小坂 未来 高橋 慶
藤澤 美穂

編集後記

特集記事は附属病院のコールセンターにスポットを当てました。電子メールやSNSの世の中とはいえ、直接話すことのできる電話の需要はまだあります。利用件数も順調に伸びているようですので、これから期待できますね。

さて、本稿を書いている4月13日、石割桜はまだ数輪が開いただけですが、それでも人々は木の下で目を細め、指をさしてにこにこ笑っています。499号がお手元に届くころには、すでにお花見を済ませていることでしょうか。遅い春も、岩手に暮らす楽しみの一つですね。

みちのくの話の中の選櫻 高浜年尾

(編集委員 影山 雄太)

岩手医科大学報 第499号

発行年月日 平成30年4月30日

発行 学校法人岩手医科大学

編集委員長 小川 彰

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19-1

TEL. 019-651-5111 (内線7023)

FAX. 019-624-1231

E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

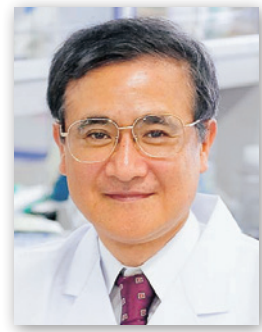
印刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp

スポット薬学講座



生物薬学講座神経科学分野 教授 駒野 宏人

アルツハイマー病の研究とやる気・健康の科学

本講座では、神経科学・脳科学を専門分野として、アルツハイマー病（AD）の治療・予防法の開発を目指した研究と、意欲や動機付け・学習の神経科学および健康科学についての学習・教育活動にも取り組んでいます。本講座の担当科目は、主に中枢薬理や生理学ですが、ここでは、本講座の研究活動および自由選択科目として取り組んでいる科目を紹介したいと思います。

■ 研究活動

本講座では、ADの治療・予防法の開発を目指し、主に脳内レニン・アンジオテンシン系によるAD原因分子であるアミロイドベータ蛋白(A β)の産生制御について解析を進めています。北東北では、高血圧患者の割合が高く、心疾患や脳卒中のような血管疾患の割合が多いことが知れています。一方、中年期高血圧は、AD発症の危険因子にもなっていますが、その発症の分子機構は不明です。したがって、北東北においては、血管疾患とともに、高血圧が引き金となるAD発症の予防・治療対策も重要と考えられます。そこで私達は、血圧を制御しているレニン・アンジオテンシン系によるA β 産生制御機構を解析した結果、血圧を制御するアンジオテンシン受容体がA β 産生に関わり(Liu et al., Sci. Re., 5:12059, 2015)、また、ある高血圧薬アンジオテンシン受容体ブロッカー（ARB）がA β 産生をあげることを見いだしております(Lui et al., Neurosci Lett. 567:51, 2014)。今後、さらに詳細なメカニズムを解析し、中年期高血圧が引き金となるAD発症の機構とその予防法について明らかにしていこうと考えています。

■ 教育活動

「自ら意欲的に学び成長し続ける人材を育成していくこと」という本講座の教育方針のもと、脳科学、健康科学を背景に行っている自由選択科目について紹介します。

* 「自分を変える脳科学」

脳科学の進歩によって、我々の心や行動を引き起こしている分子基盤がより深く理解されるようになり、病因だけでなく、人間がよりよく生きるための研究が進んできています。この講義では、このような背景のもと、能率のよい学習法や意欲を高める方法、挫折からの回復力を養う方法など「生きるスキル」に役立つ脳科学を対話形式のグループワークを通じて理解を深めています。学びとグループワークを通して学生たちは、明るくなり意欲的になっていくのを体験しております。

* 「薬離学」

「薬理学」と同読みにし、薬を離れていくという意味で「薬離学」という独自に命名した自由選択科目です。今、日本は超高齢化社会がさらに進んでいて、このままいくと高齢者への医療費が増大し国家予算の半分以上を超えていくことが予想されています。それを防ぐため、もちろん必要な薬はありますが、健康維持や予防を充実させ薬を減らしていくことが強く求められています。本講義では、そのための健康科学を学んでいきます。具体的には、メンタルケア、睡眠の効果、運動の効果、そしてプラセボの脳科学を学び、また、健康に良い食生活習慣や健康に関する疫学調査を整理し、本来身体がもっている免疫力や抗酸化力などをいかに活性化するかという「体の中にクスリをつくる」科学を学びます。今後、薬剤師は、薬を使わないセルフメディケーション・減薬を指導することも、ますます重要な職務になっていくと考えております。

以上、本講座では、自ら意欲的に学ぶ健康サポーター、そして研究マインドをもつ薬剤師教育に専念しております。